

第3・4学年 道徳科学習指導案

令和2年11月 2日(月) 5校時

3年 2人, 4年 2人 計4人

指 導 者

- 1 主題名 友だちならどうする 内容項目 B－(9) 友情, 信頼
教材名 「絵葉書と切手」 (学研「新・みんなの道徳3年」)

2 主題について

(1) 主題設定の理由

① 指導観

学習指導要領では, 中学年段階の「友情, 信頼」に関する内容項目は, 「友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合うこと。」と示されている。

日常生活においては, 友達との関わりの中で, 気まずい思いをすることもある。そのようなときは, 相手のことを理解し, 相手の立場に立って考え, 健全な仲間集団を積極的に作っていかうとする意識をもつことが必要である。他者を意識し, 相手の心に目を向けさせていくことや, さらに, 相手のためになることなら言いにくいことでもあえて忠告し, それを受け入れられる関係が, より深い友情の形であることに気づくことも大切である。このような友達との関わり方について考えることを通し, 友達と互いに理解し, 信頼し合おうとする心情を育てるため, 本主題を設定した。

② 児童観

この期の児童は, いわゆる「ギャングエイジ」と言われる年代を境として, 親や教師に頼ろうとするそれまでの姿勢から, 友達の励ましや意見によって悩みを乗り越えたり問題を解決しようとしたりするようになる。しかし, 友達関係で悩み苦しむ時期でもある。友達に対してどのような行動をとればよいのかということは, 唯一絶対というものはなく, その時々により最善な判断をしていくことが望まれる。

③ 教材観

友達の正子から料金不足の絵葉書を受け取った主人公のひろ子は, 正子のことを考え, どうしたらよいか迷う。母のアドバイスは「お礼だけ伝えればいいかも(友達だから, 相手を傷つけるよりはいいかもしれない)。', 兄のアドバイスは「料金不足をちゃんと伝える(友達だから, まちがったことは教えてあげたほうがいい。)」であった。ひろ子は, 一人でじっくり考えて, (正子さん, きっとわかってくれる。) と思い, 返信の際に料金不足のことを書き足すことにした。

お礼だけで済ませた場合はどのようなことになるか, 知らせた場合はどうなるかと, 児童がいろいろな結果を予想し, 「自分がどうしたいのか。」だけでなく, 相手の立場を考えて「どうすることが本当の友達なのか。」を議論することができる教材である。

(2) 教材について

○ 内容項目の系統（友情，信頼）

〈第1学年及び第2学年〉

友達と仲良くし，助け合うこと。

〈第3学年及び第4学年〉

友達と互いに**理解**し，**信頼**し，助け合うこと。

〈第5学年及び第6学年〉

友達と互いに信頼し，学び合って友情を深め，異性についても理解しながら，人間関係を築いていくこと。

〈中学校〉

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達を持ち，互いに励まし合い，高め合うとともに，異性についての理解を深め，悩みや葛藤も経験しながら，人間関係を深めていくこと。

○ 価値構造図

主な場面	心の動き	道徳的価値との関連
転校していった仲良しの友達(正子)から美しい絵葉書が届くが，それは定形外郵便物で，料金が不足していた。兄に教えられて，ひろ子も初めて定形外郵便物について知る。	○ 「料金不足」と言われて，びっくりする。 ○ 美しい絵葉書に感激する。	友情・信頼 感謝 感動(・畏敬の念)
ひろ子は，返事を書こうと机に向かうが，ゴム印が気になる。家族に相談すると，母と兄が異なる意見で，ひろ子は迷ってしまう。	○ 友達なら，教えてあげたほうがいいのだろうか。 ○ 「料金不足」→正子は嫌な気持ちにならないか。	友情・信頼 正直・誠実 (親切・)思いやり (相互理解・)寛容
ひろ子は，一人で考えると，二人で遊んだ楽しい思い出が浮かんでくる。決心して，返事を書き始める。	○ やっぱり知らせよう。あの正子なら，わたしの気持ちを分かってくれる――。 ○ 気持ちがすっきりする。	友情・信頼 相互理解(・寛容) 正直・誠実

(考察)

【道徳的価値から (①～③)】

本学級の児童は、全員が「友達の力になりたい」という気持ちをもっていることが分かる。しかし、友達のことを考えてまちがいを注意したり正しいことを伝えたことのある人は、半数である。また、それらのことが「自分にも相手にもよいことにつながる」経験は、まだ少ないことが分かる。さらに、「集中してそう」→(相手に嫌がられるかも)、「年上」→(相手が文句を言ってくるかも)という理由で、言葉を呑み込んでしまった経験がある人も半数いた。

これらのことから、「相手のことを考えたとき、(相手に嫌がられるかもしれない)まちがいは教えてあげる。言うべきことはいう。」という『友情・信頼』の価値理解を深めたい。また、人間理解も十分に深めたうえで、それを乗り越える価値の良さにも気づかせたい。

【研究主題との関連から (④～⑥)】

本学級の児童は、道徳科の授業について苦手意識をもっている人はいないことが分かる。その理由は、「心(を考えること)が好き」「(自他の気持ちを)考える力が(身に)つく」「これから気をつけることを、目標にできる」など、さまざまである。その中で、「友達の意見が、自分の意見と似ているから。」という意見は、自己肯定感の低さの表れであるとも解釈できる。それらは、『⑤発表について』『⑥話し合いについて』の苦手意識の理由からも分かる。人数的には1～2人だが、割合でいうと4分の1から5割に当たるので、担任として、さらに意識していきたい。

本時でも、話し合いや発表の際は、友達の意見が自分と異なっていたり見当違いだったりしたとしても、笑ったり頭から否定したりしない声かけや雰囲気づくりに気をつけたい。

3 指導の全体（事前事後指導・他教科との関連）

次	道徳科の関わり	他教科活動の関わり	行事・体験活動など
事前	<p>〈「心をつないだ合言葉」 （伝統と文化の尊重， 国や郷土を愛する態度）〉</p> <p>自分の住んでいる地域は，そこに住むたくさんの人々が郷土を大切に思う気持ちで守られてきたことに気付き，自分の郷土を大切に思う心情を育てる。</p>	<p>社会科： 3年「農家/工場の仕事」 4年「谷に囲まれた台地に水を引く」</p> <p>理科： 3年「風やゴムで動かそう」 4年「水のすがたと温度」</p> <p>図工科：「ひもひもワールド」</p> <p>体育科：「キックベース」</p>	<p>運動会（9月）</p> <p>社会科見学（11月）</p> <p>お別れ遠足（3月）</p> <p>〈常時活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・係や日直の仕事 ・委員会の仕事 ・朝のボランティア活動 ・朝の体力づくり ・全校みんなで遊ぶ日 ・クラスみんなで遊ぶ日 ・たてわり班清掃 ・帰りの会の「いいこと発表」 ・「キラキラコーナー」の活用
本時	<p>主題名：友だちならどうする</p> <p>教材名：「絵葉書と切手」</p> <p>中心価値：B—（10） 友情，信頼</p>		
事後	<p>〈「ぼかぼか言葉」 親切，思いやり〉</p> <p>動作化や役割を演じるといった，体験的に理解する活動を通して，言葉には人をうれしい気持ちにさせる言葉と，反対に傷つけてしまう言葉があることを理解し，相手の気持ちを考えて適切に使おうとする態度を養う。</p>		

4 研究主題（仮説）との関連

研究主題と本授業を関連付けていくために，次のような手立てをとっていく。

(1) 仮説1 道徳の時間において，考え・議論する場や方法，発問を工夫することで，自覚化を図ることができ，**深い学び**が実現するのではないかと。

- ネームプレートを用い，自分や友達の考えや立場を可視化することで，議論をしやすくする。
- 事前にとったアンケート結果を導入と終末で話題にすることで，自分の問題として捉えさせる。
- 議論させるときに，話し合いを活性化させるための切り返しの発問を準備しておく。

(2) 仮説2 道徳の時間において，板書やワークシート等の指導方法を工夫改善したり，見取りの視点や方法を設定したりすることで，評価につなげ，教師自身も**授業改善を図る**ことができるのではないかと。

- 登場人物の関係や考えさせたい場面を明確にするため，人物の相関図を提示する。
- 指導過程「高める」において，ワークシートに6つの観点を示し，子どもたちに選択させて自分の考えを書かせることで，自覚化を促す。

5 本時

(1) ねらい

友達との心のつながりの大切さを自覚して、互いに信頼し合い、助け合おうとする心情を育てる。

● 見取りの視点と本時の目標（目指す児童の具体的な姿）

視 点	① 価値理解，人間理解，他者理解などの道徳的価値を自分自身との関わりの中で深めているか。	② 多面的・多角的な考え方へ発展しているか。	③ 自己の生き方について考えを深めているか。
具体的な姿 (下学年)	<ul style="list-style-type: none"> ひろ子の行動や気持ちを自分のこととして考えている。 自分の生活や考えを見直そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分と違う意見や立場を受け入れている。 ひろ子の行動をもっとこうしたらよいのにと考えている 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を終えて自分はこうしたいという気持ちを言葉や文字に表している。
具体的な姿 (上学年)	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだ価値を理解している。 よいと思ってもなかなか行動に移せない心の弱さを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分と違う意見を聞いて，自分の考えが増えたり，変わったりしている。 自分がひろ子と同じような場面に出合った時，自分はどうすればよいかを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を終えて自分はこうありたいという考えを言葉や文字に表している。

(2) 指導にあたって

① 気づく

アンケートの結果からこれまでの生活を振り返らせ、本時の主題にかかわる「友情」について話し合い、めあてを立てるようにする。

② さぐる・見つける

教材文を読み、教材文の中にある価値に気づかせた後、主人公たちの行動を評価させることで価値の理解を深めたい。また、「自分だったらどうするか」と問うことで、自分事の課題として捉えさせ、価値の自覚化を図る。

③ 深める

「道徳的価値についての理解」「多面的・多角的な見方へ発展しているか」「自己の生き方について考えを深めているか」など、6つの観点を示し、その中から子ども自身に選ばせて、授業で考えたことを書かせる。

④ 高める

導入で話題に挙げた場面を再提示し、同じような場面に出合ったときに、どのような行動をすればよいかを考えさせることで、学んだ価値を実践する意欲を高める。

(3) 実際

指導 過程	主な学習活動 ・予想される児童の反応	時間 (分)	教師の具体的な働きかけ ※評価 (評価の手段)
価値 の 意 識 化	<p>1 アンケートの結果から、考えていきたい問題に気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝えると、すっきりするな。 相手が嫌な気持ちになるかもしれないと考えると、伝えない方がよいときもあるかも。 <p>2 めあてを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>友達ともっと良い関係になるためには、どんな気持ちが必要だろう。</p> </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を提示し、「友達に伝えるか伝えないか迷ったとき、どのように考えればいいのか」に繋げ、めあてを立てさせる。 <p>※ 自分の生活を見直そうとしているか。</p> <p>※ よいと思っけていてもなかなか行動に移せない心の弱さを理解している。</p> <p style="text-align: right;">(つぶやき・発言)</p>
価値 の 焦 点 化 ・ 追 究	<p>3 教材文「絵葉書と切手」を読んで、考えていきたい問題について話し合う。</p> <p>(1) もし、自分が『ひろ子』なら料金不足を伝えますか、伝えませんか。</p> <p>ア ネームプレート貼付 イ ワークシート記入 ウ 話し合い</p> <p>【伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本当のことを教えてあげるべき。 ずっとまちがったまま。 正子のため <p>【伝えない】</p> <ul style="list-style-type: none"> 嫌な気持ちにさせたくない。 悪気があったわけではない。 私のために絵葉書を送ってくれた。 	25 ⑩ ⑩	<ul style="list-style-type: none"> 範読前に、『定形外郵便物』と料金について説明する。 範読後、人物相関図を提示しながら粗筋を確認し、考えていきたい問題を焦点化する。 転校した友達の名前を出し、自分事として考えさせる。 母「お礼だけ書いた方がいい」、兄「教えてあげたほうがいい」というアドバイスもおさえる。 どちらかの意見に片寄ることも考えられるので、指導者も話し合いに参加し、切り返しの発問を行う。 <p>※ 自分がひろ子と同じような場面に出合った時、自分はどうすればよいかを考えている。</p> <p>※ 自分と違う意見や立場を受け入れている。</p> <p style="text-align: right;">(ワークシート、発言)</p>

		(2) 迷ったひろ子が「やっぱり知らせよう。」と決めたのは、どうしてでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・「あの正子なら、私の気持ちを分かってくれる。」 → 友達を理解し、信頼している。 ・ 本当に友達のためになることを考えた。 	⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えることで、正子との関係が壊れてしまう可能性があることもおさえる。 ・ 友達を理解し、信頼していることをおさえる。
価値の自覚化	深める	4 これまでの自分を振り返り、今後大切にしていきたい気持ちについて考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信らいし合える。 ・ 相手のために、相手のことを考える。 ・ 何でも言い合える。 </div>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「道徳的価値についての理解」「多面的・多角的な見方へ発展しているか」「自己の生き方について考えを深めているか」という観点の中から自分が書けるポイントを選んで、考えたことをワークシートに記入させる。 <p>※ 授業を終えて自分はどうありたいという考えを言葉や文字に表している。 (ワークシート・発表)</p>
価値の意欲化	高める	5 アンケート結果（それ以外でも日常生活の場面）を振り返り、これからの行動について考える。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだ道徳的価値を、これからの行動に生かせるように、意欲づけする。 <p>※ 自分の生活や考えを見直そうとしている。 (発表)</p>